

製造に従事し意匠の改善に多大の注意を拂ひ居れり。戦前の價格よりも安價に販賣せんとする或會社に對抗して値上運動起るべしと觀測せらる。古自動車取引は新自動車と同様の好況を示し目下販賣業者手許在高は今春に比し約半數以上を減ぜり。

其他 ミルウオキー、インデアナポリス、オマハ、サンフランシスコ、シアトル各地の狀況は前記各市の取引狀況と大同小異なり。

英佛白獨米製鐵業の角逐

在リヴァプール 領事 益子 齋造

總 說

戦前一九一三年に於ては世界に於ける鐵及鋼鐵の全產額中其八十五パーセント餘は英、佛、白、獨及米の五國よりの產額に係り、一九一一年乃至一九一三年に於ては右五國は毎年平均百二十萬噸の銑鐵及九百六十萬噸の鋼鐵を爾餘の諸國に供給せり。而して斯業界に於ける前記五國間の角逐は軌道用鋼鐵に關しては其生産及貿易に付、國際間の了解に依りて緩

和せられたる所なるも、其他に關しては戦前より戦後に至り依然現存する所なり。唯戦後に於ける狀態の變化特に英國及米國に於ける生産力の増加は前記競争を輕減するより寧ろ之を緊密にせりと謂ふべし。惟ふに斯業界に於ける各國間競争力の強弱及優劣を決定するものは結局に於て生産費に關する問題に歸着するものと謂ふべきものなるが故に、各國に於ける該問題を左右する諸種の條件は注目し値するものなり、而して右生産費に關しては各國別に之が科學的一覽表を作成するが如きは固より不可能の事項に屬すと雖、一步を譲りて右生産費に關する諸種の問題を闡明ならしむるに足る二三主要の條件に就ては之を各國別に知ることを得、就中最固定的にして最主要なるものはコークス、銑鐵及或種仕上鋼鐵（例へば船舶建造用鋼板の如き）の夫々の價格なりとす。鐵鑛の價格は含有する鐵分の如何によりて差異甚しきものなるが故に前記三箇の條件程重要視すること能はざるものとす。又各國に於ける勞働賃銀及鐵道運賃等も亦看過すべからざるものなり、扱て前記三箇の主要條件に關し英佛白獨及米の五國は戦前及戦近如何なる實績を擧げたるや、之を表記すれば左の如し。

コークスの噸當り價格に關する五國各自の條件比較表

	一九一三年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年
英 國	二月志八片	一月 六 月	一月 六 月	一月 六 月
佛 國	二七・五〇法 (正貨二二志)	四月志六片 一五〇法 (正貨六四志)	六月志九片 二六〇法 (正貨一〇九志)	二月志六片 六五法 (正貨二五志)
			六月志六片 四二志六片 (正貨五〇志)	二月志六片 二二三志六片 (正貨三六志)

白	獨	米
國	逸	國
(正貨二九法) (正貨二二志)	(正貨二二五馬克) (正貨一七志)	(正貨一〇志)
(正貨一五五法) (正貨五五志)	(正貨一四志)	(正貨三二志)
(正貨一三〇法) (正貨五五志)	二八八・九〇馬克 (正貨三七志)	一五・〇〇弗 (正貨六六志)
一四四・五〇法 (正貨五二志)	二八八・九〇馬克 (正貨二三志)	五・〇六弗 (正貨二七志)
一一二・五〇法 (正貨四八志)	三三一・二〇馬克 (正貨二五志)	二・八一弗 (正貨一五志)
一〇八法 (正貨四〇志)	五九〇・六〇馬克 (正貨一四志)	二・七五弗 (正貨一三志)
九七法 (正貨三五志)	一・二〇馬克 (正貨一八志)	六・五〇弗 (正貨二九志)

備考

英國に於ける一九一三年度分の價格として掲げたものはミッドルズブロー地方鐵工業に於て使用せるコークスの價格、但し佛國の分は國境產コークスの價格を採りたるものなり。

銑鐵の噸當り價格に關する五國各自の條件比較表

英	佛	白	獨	米
國	國	國	逸	國
一九一三年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	
五月志	一月志	一月志	一月志	
九〇法 (正貨七一志)	一六〇志 (正貨一六三志)	二二七志六片 (正貨二五三志)	二二五志 (正貨一三〇志)	一〇〇志 (正貨八一志)
八五法 (正貨六七志)	五三〇法 (正貨二四七志)	八五〇法 (正貨三三七志)	三八六法 (正貨一三三志)	二四〇法 (正貨八七志)
七七・五馬克 (正貨七六志)	一一・一九五馬克 (正貨一〇一志)	一六・六〇馬克 (正貨一三三志)	一五・六〇馬克 (正貨一二一志)	三三・二六馬克 (正貨八四志)
一六・五三弗 (正貨六八志)	四四・〇弗 (正貨一三九志)	四七・一五弗 (正貨二二五志)	二五・五〇弗 (正貨一三五志)	二一・三四弗 (正貨一〇二志)
				二七・三二弗 (正貨一二四志)

鋼鐵板の噸當り價格に關する五國各自の條件比較表

英	佛	白	獨	米
國	國	國	逸	國
一九一三年	一九二〇年	一九二一年	一九二二年	
一月志	一月志	一月志	一月志	
一五三志 (正貨一七〇法)	四三〇志 (正貨一、一〇〇法)	四八〇志 (正貨四〇八志)	二二〇志 (正貨二七三志)	二二〇志 (正貨二七三志)
一四・七五法 (正貨一八志)	一、一〇〇法 (正貨五二二志)	七三〇法 (正貨二二六志)	七二〇法 (正貨二二七志)	七二〇法 (正貨二二七志)
一二馬克 (正貨一一八志)	一、一〇〇法 (正貨五二二志)	八二二法 (正貨二二七志)	五二〇法 (正貨一八七志)	五二〇法 (正貨一八七志)
二二馬克 (正貨一一八志)	二、二三五馬克 (正貨二〇一志)	三〇・九〇馬克 (正貨二五二志)	一、七七五馬克 (正貨一三七志)	一、七七五馬克 (正貨一三七志)
三三・六〇弗 (正貨一三八志)	六〇・九二弗 (正貨三三〇志)	五九・三六弗 (正貨三一七志)	四三・六三弗 (正貨二二二志)	三三・六三弗 (正貨二二二志)
				三五・八四弗 (正貨一六二志)

前記諸表に於て見る如く銑鐵及鋼鐵板の價格は現下の貿易

不振の時に於ては之が生産費に關する問題を窺知するに有用

の資料たるべし、然れども唯茲に注意すべきは前記諸表に掲げたる數字は國內販賣價格を示すものなるに付必ずしも同品の對外貿易價格と一致するものに非ざるの一事なりとす。

英佛白獨及米の各國に於ける製鐵

及製鋼業の比較

一、英國

英國に於ては全局より見て生産費は漸次減少に向へり、英國製鐵業の材料鐵礦中西班牙產上等品鐵礦は一九一三年には一噸二十志の賣價（但し西班牙より英國への船賃を除く）を有したるも、現今に在ては右船賃を加算し一噸二十七志又は此の以下にて賣價を附し得る次第なり。又同じく製鐵業の材料たるコークスの價格に就て云ふもデュアハム產鎔鑪爐用コークスはミッドルズブロー地方に於ける鐵工業所要の分に付之を檢するに、一九一三年には前掲コークス價格比較表に示す如く一噸平均價格二十一志八片なりしが、翌一九一四年上半期に至りては一噸に付十七志乃至十八志六片の間を移動せり、最近一九二二年六月に於ける價格は窯業用のもの一噸に付二十三志六片なり。元來英國工業は價格低廉なるコークスの賜として發達し來れるものなるも、右は一九二〇年に於ては一時反對の現象を示し當時窯業用コークスは一噸六十二志九片の高價に上りたるも現今に至りては大體に於て従前通りの廉價に復歸せり、英國產銑鐵は今や戰前に於けるが如く世界中最低價格を維持するものに非ずと雖、既に他國品に對し競争的地歩を獲得し得るの程度迄價格の引下を見たり、而して一九二一年に於ける此種貿易の不調は英國よりの輸出銑鐵より寧ろ英國への輸入銑鐵の量を多からしめたるも現今に於

ては斯の如き變態は既に去て從前の如く銑鐵の輸出貿易を復活せり價格に於てクリーブランド產銑鐵は一九二二年六月一噸九十志を算したるが右は戰前に於ける同種銑鐵の價格に比し五十パーセントの高騰に當れり。

次に勞働賃銀率も亦生産品の販賣價格を基礎として上下するの制度たる所謂平滑賃銀法に則りて協定せられたる爲、生産費の減少に伴ひ自働的に降下せり、一例をクリーブランド鎔鑪爐勞働者の賃銀率に見るに右賃銀率は一九二一年一月に於ては標準賃銀率より高きこと一七〇・四分の一なりしも、一九二二年四月に至りては標準賃銀率より高きこと僅に三四・二分の一迄降下せり、剩へ混合賃銀協議會の組織を改善したる爲、向後更に賃銀率の引下を爲し得べしとの豫想を抱く筋あるも又他の方面に於ては雇傭主及勞働者間の協定に依り賃銀率變更の件を延期せり。

英國鐵工業に於ける生産諸條件は概ね斯の如く有利なる地歩を占むるものなるに反し、獨り其鐵道運賃は之と同一に律し難きものなりとす。英國鐵工業は大體に於て海岸線に接近して經營せられ從て其生産品の海外輸出に當りて享受する利益の莫大なるに比し高率なる英國鐵道運賃の反動は稍々營業者の苦痛とする所なり、特に現在に於ては通常運賃に加ふるに割増運賃を課し而も右割増運賃は距離の遠近を問はず一律に之を課するものとせる所謂一律割増法に依るものなるが故に概ね短距離運送のみを事とせる英國當業者の大部分は之に依りて不當の刑罰を受くるものに似たり、尤も英國鐵道運賃と雖近時鐵道作業費の縮少に伴ひ漸次遞減の方針に出でたるも之が實行は遅々として捗らず英國鐵工業者は右鐵道運賃の

問題に對しては前記一律割増法にして全然撤廢せられ、尙且一般運賃率にして其戰前運賃率より高きこと五十パーセントの率迄引下げらるゝに至る迄は決して安堵の思を爲すこと能はざるものなりとす。

二、佛 國

佛國に於ては鐵工業地帯の地下に藏する鐵鑛の供給潤澤なるの理由に基き其東部（ロレーンを含む）地方に於ける製鐵及製鋼業の繁榮を來せり、シオンビル產出の鐵鑛は一噸僅十一法（先づ四志）を算するに過ぎずして之より優良品たるブレイ產出のものと雖、一噸十五法（先づ五志六片）を出てざるの現狀なり。

鐵鑛に關して天與の恩惠あるに拘らず佛國鐵工業はコークスに關しては之をウェストフアリアに仰がざるべからず、故に燃料問題は佛國鐵工業者の處理すべき最緊喫の問題たり。蓋し燃料は常に其價格に於て正當の標準を維持することを要するは勿論なるのみならず亦其供給が規則的ならざるべからざるものなり、而して獨逸に於ける局面の變化は佛國製鐵業に對するコークスの規則的供給を阻害したること一再にして止まらず、之が爲、佛國は災厄を被れること亦屢々なり一九二〇年六月に於ては佛國に於けるコークスの價格は他の何れの鐵工業國に於けるよりも昂騰し而も右高價を拂ふも尙之を得ること容易の業に非ざりしなり。スバー協定の結果彼の獨逸賠償義務の履行として給付せらるるコークスは寧ろ規則的供給を爲し得るものなりしが故に佛國政府は之を特に國內鑛鑪の用に供せしむることとせり、斯の如くしてコークスの價格は一噸に付一九二〇年六月に於ける二百六十法（百九志）

は一九二一年十月に至りては六十五法（二十四志）に降下し當時に於ては英國又は白耳義に於けるよりも却て廉價なりしものなり、佛國政府のコークスの價格管理は一九二一年末に於て廢止せられ其後同價格は上騰し一九二二年六月には一噸九十三法（三十六志）に達せり、然れども右の騰貴は獨逸產コークスの同國內に於ける價格著しく騰貴したるの事實に原因する次第なりとす。

銑鐵に關しては一九二一年最後の三箇月間に佛國に於ては一噸百七十五法（六十五志）位の廉價にて販賣せられたるも右は翌年一月に入りて二百十法に上り其後更に三十法を増せり、然るに同年六月に及び再び二百十法に下落せり、鋼片はロレーン產のものを以て大規模の輸出貿易を行へるものなるに右は一九二一年六月に於ては英國類似品の價格一噸に付百四十五志乃至百五十志なりしに對し、一噸に付三百三十法乃至三百四十五法（百二十七志乃至百三十三志）の價格に止まれり。

佛國鐵道運賃率は統一制を採用せるものなるが故に鐵類のみに付ての運賃率の比較は現在と戰前との間に於てだに之を爲すこと能はざる所なり、然れども現在佛國に於ては其鐵及鋼鐵の輸出に對しては特殊の低下率を適用せる事實は注目し得るものなりとす。佛國に於ける斯業生產費輕減の爲、費したる努力は實に前記の如きものあり、佛國は今や休戰以來嘗て見ざる製鐵及製鋼業の好成績を挙げ既に其產額は英國の上位を奪ふの成功を博せり。

三、白耳義

白國に於ては勞働賃銀に關する問題を以て最緊要と爲す、

白國鐵工業は鐵鑛は之をルクセンブルグ及ローレーンに仰ぎコークス及原料石炭は之をウェストファリアに俟たざるべからざるにも拘らず、尙能く戰前既に自國を一大鋼鐵輸出國たるの域に進めたり、白國鐵工業關係者の示せる企業的及組織的才能は勿論偉大なるも更に一轉して同國の鐵工業國としての存立は其勞働者の精巧及勞働賃銀の比較的低廉なる事實に負ふ所大なるは何人も認むる所なり、唯一九二一年に於ては勞銀は戰前に比し五倍の高さに上り職工組合は實質的賃銀引上を久しきに亘りて反對し遂に成功せり、斯の如く白國は其特徴たる低廉なる勞銀に由る利益より一時離れたるが故に同國は最近十八箇月間に在りては他の歐洲大陸諸國に比し不順の地位を占むるの己むなきに至れり、然れども近時勞働者側に於て十パーセントの賃銀率引下を承諾したるの事實は同國固有の賃銀率の低廉に由るの利益を再現するに至るべしとの光明を與へたり。

白國產鐵類の價格は現在に於ては概して佛國と殆ど同一の平準を保ち或種仕上鋼鐵のみは佛國品より却て廉價なり。然れども白國鐵工業生産品にして其價格の點に於て佛國品と拮抗し得べきものは其生産額に於て著しき制限を受けつゝあるの現状なるに付白國鐵工業は佛國の夫れに比し今尙一層の困難と闘へるものなりとす。

白國對ルクセンブルグ經濟同盟はルクセンブルグ鐵工業が其鐵鑛產出地帯に於て經營せられ且ウェストファリアの石炭に對して白國よりする以上の近距離に位するより白國鐵工業關係者をして甚しく不安の想を抱かしめたり。然れども右同盟は白國斯業者の直接反對ありしに拘らず遂に其成立を見る

に至れり、第三者としての右同盟に對する見解は即ち白國は之に依りて國內市場に對する一時的手違を齎したる代りに廣く世界競争場裡に於ける其競争力を増大することとなり、而して右國內市場に對する一時的手違と雖、白國當業者に於てルクセンブルグ斯業者との間にルクセンブルグ鐵工業者が嘗て獨逸に於ける鐵工業者聯合との間に約定したる同様の協定を締結し終らば自然再び舊態に復すべきものなりと云ふに存す。

四、獨逸

一九二一年中獨逸製鐵及製鋼業は主として國內市場に於ては馬克相場の上騰したるに伴ひ一時的な好況に在りしことあり、其後馬克相場の下落したるに拘らず獨逸產鋼鐵の正貨價格は一九二二年六月に於ては一九二一年六月より上騰せり。馬克相場の変動に依りて獨逸工業界の受けたる影響は世界人士が其經驗上熟知せる現象なり、即ち先づ馬克の爲替相場下落すれば次に來るものは國內に於ける物價騰貴なり、而して最後に國內工業に於ける生産費も亦從て上騰するに至る、斯の如き道程に於て最緊要なるは常に一の動搖より一新平衡時に達する迄の中間期間なりしものなるが右中間期間は馬克相場下落の度重なる毎に漸次短少となり遂に財界の整調も早急たるに至り果ては殆ど自働的となれり。斯るが故に一九二一年六月以降に於ける馬克相場の上落は獨逸製鐵及製鋼業に於ける生産費の増加を阻止すること能はずして今日に及べり。

一九二二年初頭に於てはコークスの正貨價格は一噸十四志にして當時より滿二箇年前に於けると同様なり、然るに一九

二二年六月迄に右價格は實際に於て正貨十八志迄上騰せり、從て鋼鐵の價格に付て云ふも獨逸品と其他の諸國品との間に於ける差額は減少せられ或場合に於ては全然同額となれり、右獨逸側生産費の増加は幾分獨逸政府の産業政策即ち或種産業に對しては低率の鐵道運賃を課し及パンの價格を殊更に低下する方法に依る産業補助政策の拋棄に由來する所なり。尙獨逸鐵道運賃率は今や殆ど毎月増加するの勢を示し一九二二年六月に於ては戰前の運賃率に比し五十七倍乃至七十倍の高率に達せり。

前記生産費の増加に伴ひ生活費も亦多額を要するに至るは當然の理なり、而して右多額的生活費の負擔に對して能く之に堪へしめむとせば勢勞働賃銀率の引上を認めざるべからざるが故に獨逸勞働者は週毎に新規要求を提出し、雇傭主對勞働者の雇傭契約は僅々一箇月又は長くも六週間を期限として締結せらるゝの現狀なり。

馬克相場の下落は西班牙產又は瑞典產の上等品鐵礦乃至は佛國產下等品鐵礦の輸入を困難ならしめコークスは舊に其價格騰貴したるのみならず、其量に於て亦乏しきに至り從て遂に銑鐵生産の縮少を來せり。仍て以て獨逸は國內生産品以上の高價を拂ひながら尙且銑鐵及コークスの兩者共に外國よりの輸入を仰ぐに至れり。

前記獨逸鐵工業の國內に於ける一時的な好況及其製品價格の騰貴ありし爲、過去數箇月間に於ては世界市場に於ける獨逸の競争力を減殺せり、而して右は其他の諸國に於ける鐵工業關係者に取りては一九二一年中嘗て獨逸は世界各國鐵工業國の何れにても引受け得る而も數多からざる註文の大部分を他

國側に在ては到底競争し得ざる程の廉價を以て自ら引受けたるの事實に鑑みるときは大なる救済なりと謂ふべし。向後獨逸國內に於ける鐵類の賣行狀態平常に復するの曉には獨逸の海外市場に於ける競争は再現せらるゝに至るべきも目下の生産費は獨逸製品を材料とする場合たると將又海外よりの輸入品を材料とする場合たるとを問はず何れも騰貴の方向を示し又馬克の爲替相場の變動（下落）を利用するの手段も今や既に使用し盡したるやの狀況なるが故に、一朝海外市場に於ける獨逸競争の復活あるに於ては其勢或は猛烈なることありとするも他國を壓倒するが如きことあらむとは豫め憂慮するの限に非ざるべし。

五、米 國

米國に於ては石炭坑夫の同盟罷業に依りて反對の現象を示すに至る迄は鐵工業に於ける生産費及生産品の價格は兩者共に減少せられ斯の如き満足なる狀態は他の何れの國に於ても見ること能はざる所なりき、一九二二年初頭迄は戰前に比しコークスの價格は僅に十五パーセント又銑鐵の價格は三十パーセントの多額を算したるに過ぎずして造船用鋼鐵板の如きは現實戰前と同一の平準を維持したり。

勞銀に關しては米國は戰前一九一四年に比し概して僅に五十パーセントを増加したるのみ、例へば彼の製鋼會社の不熟練職工に對する勞銀は一九一四年には一時間二十仙なりしが一九二〇年には一時間五十仙六分の割合となり、更に一九二一年後半期には一時間三十仙となるが如し、米國に於ける勞銀に關して注意すべきは、同國製鐵及製鋼業に於ては職工の大部分は今尙毎日十二時間勞働に従事し歐洲の例に倣ひて

八時間制度を樹立すべきや否やの問題は末だ一介の調査事項に過ぎずと爲せるの點に存す。

鐵道運賃の方面は如何、一九二二年六月鐵道運賃率は十パーセントの引下を決行したるが故に今や戦前に比し六十パーセントの高率に位するに過ぎず、而して右運賃率引下の結果米國鐵工業は一九二一年に於ける沈靜の狀態より回復して一九二二年六月には銑鐵の産額は一九一三年に於ける毎月の平均産額を超過すると實に九十パーセント餘に上れり。

米國工業界の特徴たる大量生産に依る經濟狀態は實際上多額の生産品を生産すると依りて實現せられ、又米國に於て生産原料の蒐集及生産品の分配に關する天然の障礙を排除して以て收支相償ふの實を擧げんが爲めに必要とせらるる所なり、距離延ては輸送に關する問題は米國鐵工業問題の本質を形成せり。見よ彼の米國鐵工業の原料たる鐵礦はシュューペリオル湖畔より長途の輸送を経て漸くピッツブルグに至り、又同地に於ける製鐵品は其道程に於ては鐵礦の場合に比し容易なるも其運賃に於ては一層の高率を拂ひて漸く海港に送らるゝに非ずや、故にピッツブルグ鐵工業者は輸出貿易に於ては仕上鋼鐵を工場より最近距離の海港に輸送せんが爲、一噸に付、五弗乃至七弗の運賃を支拂ふとを要するの事實に依り特に重荷を負へり。米國は現に世界に於ける鋼鐵全産額の一半を産出するものなるに拘らず前述の如き事情ある爲、世界に於ける鋼鐵市場を併吞するが如き舉に出づるとなかるべし。

加奈陀市場に於ては米國は現に第一人者たるの地位を持ち將來と雖、變らざるべく、又他の市場特に日本及南米に於ても米國は畏るべき競争者たり、而して米國斯業者は現在戦前

以上に其輸出貿易に對して利害を感ずるに至れるものなるが故に、若し米國々内に於ける鐵類の賣行にして一朝衰頽に瀕せば全世界に於ける鐵類市場は忽にして米國鋼鐵の洪水を招くに至るべしとの危険は益々増大し來れる次第なり。然れども地理上の困難は米國をして全世界鋼鐵市場に於ける一競争者たらしむることなきものと思考せらる。

(マンチエスター、ガーディアン紙歐洲改造號第七卷)